

<b>Course number</b>		G-LAS14 80001 LJ50					
<b>Course title (and course title in English)</b>	生命科学キャリアパス Career Paths in Life Sciences			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Biostudies Professor,KATAYAMA TAKANE		
					Graduate School of Biostudies Professor,KAKIZUKA AKIRA		
					Part-time Lecturer,SENGOKU SHINTARO		
					Part-time Lecturer,Nakahara, Ken		
Part-time Lecturer,Amano, Maho							
<b>Group</b>	Interdisciplinary Graduate Courses			<b>Field(Classification)</b>		Career Development	
<b>Language of instruction</b>	Japanese			<b>Old group</b>		<b>Number of credits</b>	1
<b>Hours</b>	15	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Year/semesters</b>	2024・Intensive, First semester	
<b>Days and periods</b>	Intensive June 25, July 2, 9 and 16		<b>Target year</b>	Graduate students	<b>Eligible students</b>	For science students	
( Students of Graduate School of Biostudies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department. )							
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>医学・薬学・理学・農学等の学位を有する講師が、それぞれの学問的背景をもとに自身のキャリアパスを紹介する。多様な考え方に接し、また講師陣と議論をすることで、幅広い知識や教養を得ることができる。これにより、学問分野を横断して活躍するような人材を育成することが可能となる。</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<p>受講学生は、講義のなかでの議論を通じて、自然科学系の博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの自然科学系分野の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。</p>							
<b>[Course schedule and contents)]</b>							
<p>第1回 6月25日(火) 話題提供: 垣塚 彰 「研究とは何か? : 論文執筆の神髄とコツ」 本講義では、講師が留学時に経験した日本の研究と留学先での研究に対する根本的な考え方と取り組み方の違いを紹介する。どちらが良いとか優れているということではなく、もしかしたら、諸君の研究に対する意識ががらっと変わり、もの凄く研究が面白くなるかもしれないような内容にしたいと思っている。</p> <p>第2回 7月2日(火) 話題提供: 中原 剣 「研究を研究し、研究者に還元する仕事」 話題提供者は博士号を取得した後、海外ポスドク、私大専任講師等を経て、北海道大学のURA(ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター)に着任しました。主として学際プロジェクト形成のほか、研究シーズの事業化、それらに伴う研究広報等を担当しています。運営費交付金が削減され、我が国の研究力の低下が取りざたされる中で、地方国立大学の経営を維持し、研究者がその能力を存分に発揮する環境を整えることは重要な課題です。この難題を乗り越えるためには、研究を研究し、真に効果的な研究推進施策はどのようなものなのかを考える必要があります。それがURA</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to 生命科学キャリアパス(2)</div>							

## 生命科学キャリアパス(2)

の業務の一つです。講義では、皆さんと課題を共有しながら、URAというキャリアパスについてご紹介したいと思います。

第3回7月9日(火) 話題提供: 天野 麻穂

「博士号とキャリアデザイン」

博士号を取得するまでには多大な時間と労力と金銭の投資が必要となる。それ故にその取得過程においては研究の苦楽だけでなく、必然的に自己と向き合う時間が増え、人生について考える機会も多くなるものではないだろうか。本講義では講師の実体験を元に、博士時代の紆余曲折から博士号取得後社会に出てからの試行錯誤の様子をご紹介する。これらの経験を踏まえた上で、博士時代を通して得られる自己分析や哲学が、その後のキャリアデザインを考える上でも大事な指標となることをお伝えしたい。

第4回7月16日(火) 話題提供: 仙石 慎太郎

「PhDの再考とキャリア機会の多様化」

PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy) とは元来、特定の分野における専門性ではなく、研究者としての普遍的な資質の証である。換言すれば、PhD取得者は、課題或いはリサーチ・クエスションを設定する能力、設定した課題を分析的アプローチをもとに解決する能力、解決のためのプロジェクトマネジメント能力、成果を発信するためのコミュニケーション能力等を有しており、これらを活用出来るキャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもつ。本講義では、講師自身の経験にもとづき、アドバイザー・サービス（コンサルティング・ファーム、投資銀行、シンクタンク、ベンチャー・キャピタル等の提供サービスの総称）や他専門分野におけるアカデミックの活動を紹介し、これら諸活動でのPhDの意義、博士後期課程におけるキャリア計画への意味合いを議論する。

### [Course requirements]

None

### [Evaluation methods and policy]

出席および講義中の議論への参加により評価する。

必要に応じて課題を課すことがある。

詳細については開講時に説明する。

### [Textbooks]

使用しない, 講義資料を配布予定。

### [References, etc.]

(References, etc.)

三浦有紀子、仙石慎太郎 『博士号を取るときに考えること 取った後できること』（羊土社）

ISBN:978-978-4-7581-2003-6

### [Study outside of class (preparation and review)]

初回の講義において各回の講義内容と必要な予備知識について説明する。話題提供者が有する分野について予備的な知識を身につけてから毎回の講義に参加することが望ましい。

### [Other information (office hours, etc.)]

様々なキャリアを有する方々の声を聞くことができる良い機会ですので、博士後期課程学生は積極的に参加してください。進学を考えている修士課程の学生の聴講も歓迎です。